

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

高度情報教育推進委員会

(責任者名) 大内 誠

(役職名) 総合マネジメント学部 教授

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>高度情報教育推進委員会は、教務課と連携し、当該教育プログラムを構成する各科目について、受講者毎の履修状況や課題への回答状況、および単位取得状況を把握している。令和4年度に当該教育プログラムを構成する科目を履修した者はのべ500名であり、全学生数を分母とすると、履修率は約10%であった。今後は、数理・データサイエンス・AI教育を推進するため、本プログラム受講者の目標達成度や学修成果を可視化することにより客観的に把握し、プログラムを改善・進化させていくとともに、履修によるメリットの全学的な周知を強化することで、履修者および修得者の増進に努めたい。</p>
学修成果	<p>令和4年度は、当該教育プログラムの科目「統計情報を見る眼」において、LMS (UNIVERSAL PASSPORT RX)を活用し、授業期間の後半に到達度確認テストを実施した。また、「AIの基礎」では毎時間終了時に到達度確認アンケートを実施し、加えて2回の中間試験ならびにAIソフトウェア(画像認識ニューラルネットワーク)の開発課題を与えた。「情報の科学」においては、①社会福祉の観点から情報が私たちの社会生活にもたらす利点と欠点について、②リスクマネジメントの観点からの情報のあり方、③安全な医療の提供と健康維持への取組におけるICTの活用、の3項目についてレポート課題を課し、さらにイノベーションが期待されるICT活用領域におけるセキュリティの脆弱性や情報リテラシーの格差といった今後の課題について意見を求めるなど、情報活用の理念的側面についての評価を行った。これらにより、個別の授業内容のみならずプログラム履修のプロセスに沿った学生の理解度を把握することができ、その結果を高度情報教育推進</p>
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	<p>本教育プログラムの受講者全員に対して授業評価アンケートもしくは本プログラム独自のアンケートを実施し、その結果は当該教育プログラム科目である「情報の科学」、「AIの基礎」、「統計情報を見る眼」の担当教員に個別にフィードバックされ、高度情報教育推進委員会において集約することで学生の理解度を分析している。</p>
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	<p>本学では半期ごとに授業評価アンケートを実施している。同アンケートには、指導の適切さや授業の工夫といった内容を確認する項目があり、その結果を見ると3科目ともおおむね良い評価が得られていたことから、学生間でも推奨されうる科目であったと捉えている。また、令和5年度より、当該教育プログラム科目である「情報の科学」、「AIの基礎」、「統計情報を見る眼」において、後輩学生や他の学生への推奨について確認する授業内でのアンケートを実施する計画である。さらに、本教育プログラムの専用ページにおいて受講の感想等の意見を掲示し、講義受講の推奨に活用していく。</p>
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	<p>本教育プログラムを構成する「情報の科学」、「AIの基礎」、「統計情報を見る眼」は、令和4年度から全学の選択科目となり、各学科での履修ガイダンスや大学のWebページ等で広く告知し、履修者数、履修率の向上にむけて推進した。その結果、プログラム初年次にもかかわらず、全体でのべ500名もの履修者がいた。今後は、高度情報教育推進委員会を定期的に開催し、数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの観点も取り入れながら、プログラムの見直しや改善・進化を図り、より学生の履修を推進していく。</p>

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>本プログラムは令和4年度よりスタートしたため、未だ本プログラムを修了した卒業生はいない。今後は、本学卒業後、一定期間を経過した卒業生を対象に卒業後アンケートを実施し、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況の把握を目指す。また地方自治体や民間企業等に対して企業調査を実施し、本教育プログラムを修了した卒業生の採用状況や企業評価を把握する仕組みを構築する。</p> <p>本学では、地方自治体や民間企業等との連携を深め、地域の活性化に貢献することを目指している。これらの協力団体より、教育プログラムの講義内容及び実データを活用した演習等の手法について意見を聴取し、高度情報教育推進委員会においてプログラムの改善に活用する。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>モデルカリキュラムリテラシーレベルの導入部分に準じた内容を展開し、時事やトレンド、身近な事柄など社会での実例をもとにAIやデータサイエンス等がどのような活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。特に「AIの基礎」においては、座学だけではなく、Pythonプログラミングや代表的なAIアルゴリズムの開発をハンズオン形式で学ぶことにより、AI開発へのハードル意識を下げ、ものづくりの楽しさを味わえるよう工夫をしている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>高度情報教育推進委員会にてLMSに実装されている授業評価アンケートの意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。特に「AIの基礎」では、オリジナルのテキスト(PDF)やサンプルプログラムを作成し、学生たちに無料で配布している。これにより、学生は自宅で予習復習が可能となり、初学者にとっては難解と思われがちなAI開発の手順や技法を分かりやすくしている。また、「情報の科学」では、LMSを用いて、各回の講義内容に合わせて作成した動画コンテンツを授業実施前に配信し、講義内容の予習を可能にしている。各コンテンツは、授業期間終了まで視聴可能なため、必要に応じて復習やレポート作成時の参考としても活用できる。</p>